

# 就業者に着目したオフィス街の屋外における 座位滞留に関する考察

三友 奈々<sup>1</sup>・岸井 隆幸<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 正会員 日本大学助教 理工学部土木工学科 (〒101-8308 東京都千代田区神田駿河台 1-8)  
E-mail:mitomo.nana@nihon-u.ac.jp

<sup>2</sup> フェロー会員 日本大学特任教授 理工学部土木工学科 (〒101-8308 東京都千代田区神田駿河台 1-8)  
E-mail:kishii@civil.cst.nihon-u.ac.jp

本研究では、東京都千代田区に位置する大手町川端緑道における社会実験や日常的な利用の実態を比較することを通して、主に近隣の就業者が「どの位置で何をして過ごしているか」といった滞留位置と行為の実態を把握し、特に就業者にとっての日常的な短時間の利用に寄与する休憩場所のあり方について考察する。

日常的な利用では一人で過ごす就業者が多く見られ、多くは飲食をとって過ごす姿が確認できた。また、近隣店舗での食事の前後に短時間立ち寄ったと考えられる就業者も見られた。就業者にとって身近で気軽に利用されるためには、動線を背にした位置や動線から見えづらい向きに座って滞留することができ、単独や少人数で利用しやすい環境を構築する必要があると考える。

**Key Words:** *Time-Spending, Office Workers, Kawabata Ryokudo Promenade, Placemaking, Thid Place*

## 1. はじめに

### (1) 研究の背景と目的

東京都千代田区の手町・丸の内・有楽町地区（以下、大丸有地区）は、日本経済の中核を担うビジネス街として、諸外国の代表的な都市に比肩する質の高い市街地形成がなされてきた。昨今、就業者のみならず来街者が集まり快適で賑わいのあるまちをつくっていくこと、これらの人々がこのまちを楽しむことができることができる充実したエリアマネジメントを展開することが期待されている<sup>1)</sup>。

特に大手町地区では、グローバルビジネスの戦略拠点として再構築する「大手町連鎖型都市再生プロジェクト」が進行し、業務機能の更新とともに人々の憩い機能空間をいかに創出するかが課題となっている。

一方、国を挙げて働き方改革が叫ばれ、就業者の休息や休憩についても本格的に検討されている。制度改革や就業者本人・事業主の意識改革とともに、職場から気負いなく行ける範囲に就業者が無料で短時間佇める場を設置する等、就業場所やその周辺をも含めた環境整備が急務であると考えられる。

本研究では、就業者が多い大手町地区における調査を通して、就業者にとっての日常的な短時間の利用に寄与する休憩や休息場所のあり方について考察することを目的とする。

### (2) 研究の位置付け

就業者の休憩場所に関する研究として、木野村等のオフィスビルの屋上緑化の研究が挙げられる<sup>2)</sup>。アンケート調査の結果より、緑化された屋上空間はその開放感と居心地の良さ及び自然や季節の変化を身近に感じられることから、就業者に休憩場所として期待されていることを明らかにしている。

また都市に勤務する就業者の都市緑地に対する意識についてアンケート調査を行った石田等の研究では、緑と関わりたい時間帯は、昼休み 50.1%や仕事の合間の休憩時 46.4%が半数近くであったことが明らかにされている (n=345, 複数回答可)<sup>3)</sup>。これは通勤時 33.9%や帰宅時 28.1%と比較しても、就業中の休憩時間帯に緑と関わりを持ちたいことがわかり、限られた時間でも気軽に利用できる場所にあることが重要であると考察している。

本研究では大手町地区において、近隣の就業者の就業中の休息や休憩の様子を観察調査し、分析することで、オフィス街の就業者にとって身近で気軽に利用できる休憩や休息場所のあり方について考察する。

## 2. 研究方法

### (1) 調査地の概要

調査地は、JR 東京駅の北西に位置する大手町土地区画整理事業区域内に位置し、日本橋川と大手町フィナンシャルシティに挟まれた大手町川端緑道の一部（特殊街路千代田歩行者専用道第 7 号線、以下川端緑道）<sup>4)</sup> とする（図-1）<sup>1)</sup>。

大丸有地区まちづくりガイドライン 2014 において、調査地は東西の連携軸の一つである日本橋側沿いと南北の連携軸である仲通り（丸の内仲通りと大手町仲通り）との交点に当たり、人々の憩いの機能空間として歩行者専用道と一体となった広場空間を確保することが求められている<sup>1)</sup>。

### (2) 調査日時

2016 年 10 月 24 日（月）から同年 11 月 18 日（金）まで川端緑道と、それに直行する大手町フィナンシャルシティのグランキューブとノースタワーの間の手町仲通り（歩行者通路 19 号）で行われた「大手町川端緑道プレイスメイキング社会実験調査 2016」のうち、本稿では比較的温暖であった 10 月 27 日（木）の川端緑道における調査結果を詳細に分析する<sup>5)</sup>。また、この社会実験の約一年後である 2017 年 11 月 2 日（木）にも同様の調査を行い、比較分析する。本稿で扱うデータの調査日時は、表-1 の通りである。

本稿では、10 月 27 日（月）の調査を 2016 年調査、11 月 17 日の調査を 2017 年調査と呼ぶ。両調査ともに、川端緑道上の東側で仮設の飲食店舗としてキッチンカーが出店しており、飲食物購入のために注文や出来上がりの順番を立って待っている滞留者が多くいたが、調査対象外とする。

また、2016 年調査では、川端緑道と大手町仲通りが交差する地点に社会実験調査の一環でキッチンカー、可動椅子と可動テーブルを設置し、さらに大手町仲通り上の北側では仮設で足湯のイベントを開催した。本稿では、就業者の日常的な休憩や休息を扱うため、社会実験の一環として設置された可動椅子に座る滞留者や足湯イベントに参加する滞留者は調査対象外とする。

### (3) 調査方法

はじめに 2016 年調査及び 2017 年調査において、多くの就業者が休憩する昼休みと考えられる時間帯における滞留者の分布を観察調査により把握する。調査者は 12 時 30 分に同じ地点を出発し、同じルートを極力同じペースで歩きながら、滞留者の属性（性別、構成人数）、活動について目視で把握し、調査用紙に記録する。

次に 2017 年調査では滞留者の分布調査を行った範囲のうち、動線を背にして座る一部の座席に焦点を当て、そこに座って滞留する滞留者について、滞留時間、活動について目視で把握し、調査用紙に記録する。調査は

表-1 本稿で扱うデータの調査日と時間

調査年	調査日	調査時間	天気 最高気温
2016 年	10 月 27 日（木）	12 時 30 分	晴れ 22.7 度
2017 年	11 月 2 日（木）	12 時～13 時	薄曇 20.3 度

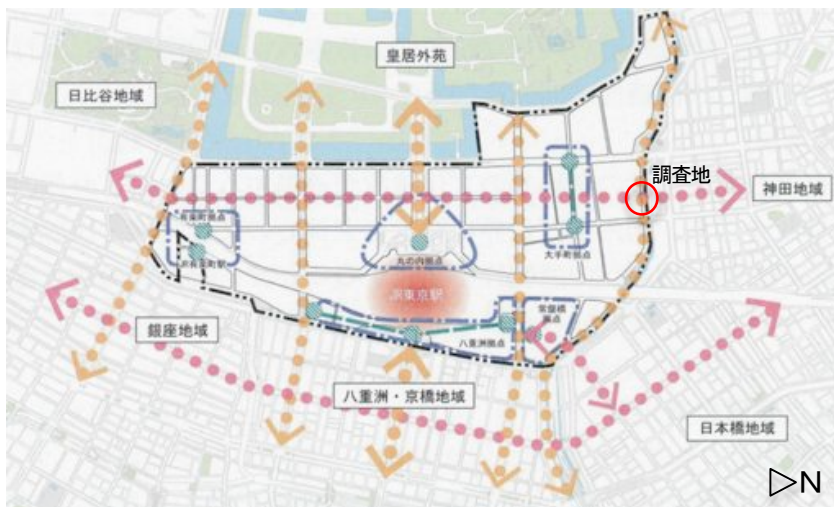


図-1 大手町川端緑道と調査地の位置<sup>1)</sup>

12 時台の滞留者について行い、12 時を跨いで滞留する滞留者と 13 時を跨いで滞留する滞留者は調査対象とする。構成人数は、滞留者が何人連れの歩行者であるかを示している。

どちらの調査も、滞留者が背を向ける場合等で活動がわかりづらい場合は、調査者は滞留者の活動に影響を与えない範囲で近づいて確認する。また、目視による観察調査の補完のため、滞留者の様子を写真を撮影して記録する。

### 3. 調査結果

#### (1) 川端緑道における滞留者の分布について

川端緑道における 2016 年調査の滞留者の分布は図-2、同様に 2017 年調査の滞留者の分布は図-3 の通りである。2016 年調査では、合計 14 名が確認でき、男性の座位

滞留者は 10 名、女性の座位滞留者は 4 名であった。目視により、すべて構成人数が一人の単独滞留であり、その多くが近隣の就業者と考えられる。半数が動線を背にする日本橋側を向く座席（図-2 の青で囲った座席）、3 名が比較的人通りの少ない動線側に座っていた。

2017 年調査では、合計 20 名の滞留者が確認でき、そのうち、立位滞留者は 3 名のうち 2 名が 2 人組の男性、1 名が単独滞留の女性であった。8 名が動線を背にする日本橋側を向く座席（図-3 の青で囲った座席）、4 名が比較的人通りの少ない動線側に座っていた。

#### (2) 動線を背にする座席における滞留者について

(1) における両年の調査において、座位滞留者の約半数が動線を背にして日本橋側（北側）を向く座席（図-2 及び図-3 の青で囲った座席）を選択していたため、2017 年調査では、これらの座席に座る滞留者の推移についても調査を行った（表-2）。



図-2 川端緑道における滞留者の分布（2016 年調査）



図-3 川端緑道における滞留者の分布（2017 年調査）



表- 2 日本橋川向きのベンチにおける座位滞留者の移行 (2017 年度調査)

	ベンチ A	ベンチ B	ベンチ C	ベンチ D	ベンチ E	ベンチ F	ベンチ G	ベンチ H	凡例
12 時を跨ぐ滞留者			○30 スマホ	●25 飲食 会話 ●25 飲食 会話	●22 飲食		■10 飲食		■ : 男性飲食を含む座位滞留
または			0	5	1		0		□ : 男性飲食を含まない座位滞留
12 時を過ぎてからの滞留者	○25 スマホ	□13 スマホ	□10 スマホ 居眠り	○8 スマホ	■14 飲食 スマホ	○9 仕事	●12 飲食 会話 ●12 飲食 会話	■14 飲食	● : 女性飲食を含む座位滞留
	4	0	0	1	0	1	3	0	○ : 女性飲食を含まない座位滞留
12 時 30 分の滞留者 (図-3)	□29 スマホ	■20 飲食 スマホ	●15 飲食 スマホ	○23 スマホ	○21 スマホ	●15 飲食 仕事	■16 飲食 スマホ	■29 飲食 スマホ 音楽	記号の後の数字 : 各滞留者の滞留時間 (分)
13 時までの滞留者	1	0	10	0	0	5		2	グレーの欄の数字 : ベンチに滞留者のいない時間 (分)
または	■6 飲食	■17 飲食	□4 スマホ	□8 スマホ	■25 飲食 電話	●6 飲食		□4 スマホ 居眠り	活動 : 飲食, 会話, スマホ (スマ ートフォンの操作), 電話 (通 話), 仕事 (書類作成), 居 眠り
13 時を跨ぐ滞留者						■5 飲食 スマホ		■7 飲食 スマホ	

表- 2 の 12 時 30 分の滞留者は、図- 3 の滞留者に対応している。また、表- 2 の滞留者と滞留者間の数字はそのベンチが空いていた時間 (分) を記載している。0 分は 1 分未満を示している。12 時台でベンチが空いていた時間はおよそ 40 分台で平均時間は計算上 30 秒から長くても 1 分程度であると考えられる。

2017 年調査における 12 時台の滞留者は 31 名であった。ベンチは 2 人掛けであるが、2 人組は 2 組でそれ以外は単独滞留であった。単独滞留の場合でも、飲食物を脇に置いてテーブル代わりにする等して多くは一人で 2 席を利用する様子が見られた。31 名中、男性の単独滞留は 17 名でそのうち飲食をしていた滞留者は 11 名であった。女性の単独滞留は 10 名でそのうち飲食をしていた滞留者は 4 名であった。飲食しながらスマートフォンを操作する様子が多く確認できた。また飲食店舗からの帰り道に立ち寄ったと思われるスマートフォンを操作する滞留も見られた。

滞留時間は一番短い滞留者で 4 分、長い滞留者で 30 分で、平均滞留時間は 15.5 分であった。会話をしている 2 人組の滞留者は 18.5 分と長かったのに対し、飲食をしない男性の単独滞留は 11.3 分に留まった。一方、飲食をしない女性の単独滞留は 19.3 分と長く、比較的女性の方が滞留時間が長いことがわかった。

#### 4. 考察

自然な滞留を遮らないために、滞留者には近隣の就業者かどうか直接確認はしていないが、男性がスーツの上着を着用していない、飲食物とスマートフォン以外の荷物を持っていない、ネームプレートを下げたままであるといった様子から、多くは川端緑道に接するオフィスの就業者であると推測できる。

両年ともに、例え近接して座っていても、座っている滞留者同志の視線は交わらない位置に滞留していることがわかった。また、行き交う人々から自分の顔が見えづらい位置に座る傾向が見られた。

また計算上は平均 1 分未満だと考えられるベンチの空き時間であるが、実際には空くとすぐに別の滞留者によって利用されるベンチがほとんどであった。近隣の就業者にとって顔が見えづらい座席は利用しやすいのではないかと考えられるが、現時点では不足していると言わざるを得ない。

潜在的な利用の需要に応えるだけの数量が必要であり、質を保つためにもベンチの形状や向きだけでなく、敷地の中での配置、樹木やそれ以外の環境との関係性を検討して設置する必要がある。

## 5. 今後の課題

本稿では昼休みの時間帯の座位滞留者に着目して分析、考察を行ったが、今後はその他の時間帯についても調査し、近隣の就業者にとって終日を通して気軽に利用できるオフィス街の休息・休憩場所のあり方について検討する必要がある。

将来的にはオフィス街に限らず、他地域においても実践が活発に行われるためにも、本調査地におけるプレイスメイキングに関する社会実験を通して得た課題やその可能性についてさらに分析を重ねるとともに、引き続き発展した取組を行う必要があると考える。

**謝辞：**独立行政法人都市再生機構並びに株式会社日建設計総合研究所、一般社団法人大手町歩専道マネジメントをはじめとした関係者の皆様に大変御世話になりました。

### 参考文献

- 1) 大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり懇談会：大手町・丸の内・有楽町地区まちづくりガイドライン 2014, 2014
- 2) 木野村泰子, 下村孝：オフィスワーカーが休憩のために訪れる屋上の現状と屋上緑化の今後のあり方, ランドスケープ研究, 71(5), pp827- 832, 日本造園学会, 2008
- 3) 石田都, 岩崎寛, 山村真司, 吉田雄史, 小川貴裕：都市勤務者の都市緑地に対する意識調査および都市域における緑地が保有する心理的効果, 日本緑化工学会誌, 38(1), pp123-126, 日本緑化工学会, 2012
- 4) 千代田区：東京都市計画地区計画の変更（千代田区決定）大手町・丸の内・有楽町地区地区計画, 2015
- 5) 独立行政法人都市再生機構：大手町土地区画整理事業における公共空間等活用調査業務報告書, 2017

(2018.4.28 受付)